

第6学年 道德学習指導案

指導者 川中 由美子

- 1 日 時 平成23年10月26日(木) 公開授業Ⅱ
- 2 学年・学級 6年2組 21名
- 3 主題名 「よりよい学校に」 内容項目 4－(6)
- 4 ねらい 創立20周年記念式典での挨拶文に悩む健太君の姿を通して、最上級生としての役割に気づかせ、学校に愛着を持ち、進んで立派な学校をつくろうとする心情を育てる。
- 5 資料名 「大好きな宮園小学校 ～受けついだもの～」 (自作資料)

6 主題設定の理由

○ 主題観

児童は、学校での諸行事を通じて協力の喜びと意味を知る。充実感と満足感もその中で味わう。そして、自分の学校のよさを感じ、学校の一員としての自分の役割を自覚するようになる。また、先生、友だち、先輩、後輩との豊かなかかわりも同時に築いていく。そのような活動の中で、学校の個性とも言うべき校風がつくられる。多くの先輩が培い、それぞれの代の子どもたちが受け継ぎ育ててきた学校の心である。最上級生としての児童が、この宮園小学校の校風を受け継ぎ、さらに何を自分達は創造していくのか考えるところに道徳的価値があると考え。

学校に愛着を持ち、学校をよりよいものにするために、1つ1つの行動を考えていくことは、とても大切なことであると考え、本主題を設定した。

○ 児童観

本学級の児童は、学級や学校の目標に向けて、力を合わせて取り組んでいこうという児童が多い。委員会活動や学校行事を通して、学校でのリーダーとして役割を自覚したり、花いっぱいの花壇への水やり活動、全校によるあいさつ運動、朝昼欠かさない放送活動などを通して、学校全体に目を向けたりできるようになってきている。一方で、最上級生としての自分の役割や責任を自覚しつつも、もっとよくなりたい、もっとよくしたいという意識は薄く、校風を受け継ぎ、発展させていくという積極的な意志はあまり見られない。

卒業まで半年を切り、学校に対する帰属意識が自然に芽生えてきたこの時期に、自分たちの学校をよりよくしていきたいという意欲を育てていくことが必要である。

○ 指導観

本資料は、創立20周年記念式典での挨拶に悩む健太くんが、隣のおじさんや友だちとの会話を契機に、自分たちが学校のためにがんばっていることや卒業した6年生の心や態度を知らず知らずのうちに受けつぎ、大好きな自分の学校が今までの卒業生みんなの力でできてきたことに気づき、自信をもって発表に臨むことが描かれている。

学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育て、最上級生としての児童が自分たちの学校への思いはどういうものなのかについて、改めて考えることができる資料である。

指導に当たっては、大きな行事が終わったときに振り返りをさせることを通して、6年生として、学校の行事や伝統に対してどんなとらえ方をしているのか調査し、授業に臨むこととする。 また、導入では、卒業を前に、6年間過ごしたこの学校に対して、素直な感想を引き出すように努め、いろいろな写真を用意することにより、資料への関心が高まるように工夫したい。 そして、20年前の卒業生の誇らしい、自信に満ちた文集を見て、当たり前だと思ってきたことが今までの卒業生によってつくられたものであることに気づき、自分たちが何もしていないのではないかと自信がなくなっていく気持ちに共感させながら、中心発問につなげていく。 中心発問では、なんとなくがんばってきたことが、実は、よりよい学校を作っていたのだということ、先輩からいつの間にか受けついできたことが多いということに気づかせ、「そんぶんに話し合う」ことで、ねらいに迫っていきたい。また、この学習を通して、卒業までの1日1日を大切にしたいという思いを深められるようにし、学校のために役立つことを考えさせていきたいと考える。 特に、体験の生かし方、取り入れ方としては、下記の通りとする。 導 入・・・学校のよいところを出し合う中で、いろいろな場面の写真も提示し、資料の世界への導入を図る。 展開前段・・・健太くんや友だちの気持ちを共感的に捉えさせるために「似たよう経験があるか。」など補助発問や切り返しの発問をし、自分の体験と関わらせて考えさせる。特に中心発問では、「よりよい学校のためにがんばってきた自分」を思い起こさせながら、健太君の気持ちを考えさせたい。 展開後段・・・生活を振り返り、「学校をよりよくするために、もっと続けていきたいこと」について自分の体験を出し合う中で、道徳的価値の自覚を図っていく。学級や学校の課題を思い起こし、これからの自分たちが、進んでよりよい学校をつくらうとする心構えを持つようにさせる。 終 末・・・先輩の学校への思いを聞く。	
--	--

7 言語活動の充実に向けて（「みやぞの響きあいプラン」の具体的な活用）

①みんなが考えを持つ	中心発問において、健太が晴れ晴れとした気持ちになった理由をワークシートに書く時間を十分確保し、自分の考えを明確にさせる。
②やさしく聞き合う	クラストークで、心の底から自信がこみ上げた健太君の気持ちをやさしく聞き合うことにより、いろいろな考えに出会わせ、道徳的価値についての理解を図る。
③そんぶんに話し合う	(指導過程に提示)
④ノートやワークシートにまとめ深める	振り返りにおいて、宮園小オリジナル「心のノート」に自分の体験を書かせることにより、自分の生活を見つめさせ、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせる。

8 準備物

短冊・場面絵・写真・ワークシート・宮園小オリジナル「心のノート」

9 総合単元的な道徳学習構想図

総合主題名	よりよい校風を作り守ろう	実施期間	平成 23 年 9 月～11 月
めざす子ども像	学校に愛着を持ち、 進んでよりよい校風を作り守っていこうとする子	中心項目 関連項目	4－（3）社会的役割の自覚と責任 4－（6）愛校心 4－（4）勤労・奉仕
体験に視点をあてた活動 教科・特別活動・総合他	体験に視点をあてた道徳の時間		児童の意識の流れ
②特別活動 「生活を見つめ直そう」 学校生活を振り返ることを通して、何のために行っているのか、どのようにすれば、よりよいのか話し合う中で、進んで活動しようとする態度を育てる。 4－（3）社会的役割の自覚と責任	①主題名 「みんなの中の自分」 内容項目 4－（3）社会的役割の自覚と責任 資料名 『あの日のわたし』と『今のわたし』 ねらい これまでと今の「わたし」の考えの違いを考えることを通して、みんなと協力し、成し遂げることの大切さに気づかせ、身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たそうとする心情を育てる。		① 自分が一生懸命になり、役割と責任を果たすと大きな達成感が得られるし、大切なことだな。
④特別活動 「『VOICE2011』に向けて」 「今自分のできること」と題した意見文を作成し、交流することを通して、よりよく生活するために、今、自分が出来ることを実践することの大切さに気づかせ、意欲を持って学校生活をよりよくしようとする態度を育てる。 4－（3）社会的役割の自覚と責任	③主題名 「よりよい学校に」(本時) 内容項目 4－（6）愛校心 資料名 「大好きな学校～うけついだもの～」 ねらい 創立20年記念式典での挨拶文に悩む健太君の姿を通して、最上級生としての役割に気づかせ、学校に愛着を持ち、進んで立派な学校をつくろうとする心情を育てる。		② 学校のみんなが生活しやすいための活動にしたいな。もっと明るく、いつも、先に、あいさつできるようにお手本になろうよ。
⑥日常活動 「委員会・係活動など」 日常生活、委員会活動や当番活動などを通して、身近な所から自分のできる範囲で、よりよい学校のためにできることから行うことができる。 4－（6）愛校心	⑤主題名 「働くことの意味」 内容項目 4－（4）勤労・奉仕 資料名 「母の仕事」 ねらい 仕事の様子を話す母と娘のやりとりを通して、働くことの意味や喜びに気づかせ、社会のために奉仕する喜びを知って、公共のために尽くそうとする態度を育てる。		③ 今行っている活動は、宮園小の伝統として作られたんだ。これからも受けつぎ、もっとよい学校にしていこうと思う。
④ みんな今できることを真剣に考えているんだ。みんなで心を1つにして実践すれば、必ずよりよい学校になるぞ。			
⑤ みんなのために頑張る姿に自分もやろうという勇気がわいてきた。これからは進んでみんなのために頑張ろうと思う。			
⑥ 今やっている活動等をもっと意欲的に行うぞ。他にも自分の出来る活動を探してみたくなった。			
学校に愛着を持ち、進んでよりよい校風を作り守っていこうとする子			

10 指導過程

段階	学習活動	おもな発問と児童の心の動き	指導上の留意点	体験を言葉で生かす指導 ☆体験を引き出す発問
導入	1 価値にかかわる体験を引き出す。	○ 卒業を5か月後に控えて、みなさんは、この学校に対してどんなことを感じていますか。 ・大好き。 ・友だちがやさしかった。 ・学校は楽しかった。 ・離れたくない。さびしい。	○ 宮園小学校のよいところに気づかせ、価値への方向付けをする。	○ 展開後段の自分の生活の振り返りにつなげさせる。
展開前段	2 資料を読んで話し合う。	○ 寝られなかった健太くんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・みんなの心が一つになったってすごいな。みんな学校が大好きだったのかな。 ・伝統を引きついでいない気がした。 ・最高学年として何もしていない気がした。 ・卒業生はどんな学校をつくりたかったのかなあ。 ◎ どんな気持ちで、健太くんは、「初めて1年生に自分からあいさつをした」のでしょうか。 <u>◎ ぞんぶんに話し合う。</u> 価値に関わる児童の反応を掘り下げることにより、友達の見解との共通点や相違点を明らかにし、自分の考えに確信を持ったり、新たな考え方に気づいたり、自分の体験と関連づけたりしながら、健太君の気持ちの変化について話し合う。 〈子どもの姿〉 最上級生の役割に気づき、最上級生として進んで立派な学校をつくろうとする気持ちを持つことができる。 ・みんながあいさつをしているから。 ・おじさんに比べて自分が情けない。 ・みんなの心があいさつで1つになるのはすごいから、がんばる。 ・下級生のお手本にならなければと思ったから。	○ 健太くんや光くんの不安な気持ちに共感させる。 ○ 不安だった気持ちと比較しながら、健太君の気持ちの変化を考えさせる。 ○ 学校のためにみんなのためにがんばったことを押さえる。	○ 最高学年としての自覚や自信をもっているか、自問させる。 ☆ 最高学年としていつも何かをしたり、考えたりしていますか。 ☆ 最高学年としての自信がありますか。 ○ 自分の体験を思い起こさせながら語らせたい。 ○ 自分と比べて同じか、違うか考えさせたい。 ☆ みんなも健太君の気持ちがわかるかな？似たような経験があるかな？

		・20年の伝統を引きつぎたい。 ・いつの間にか伝統を受けついでいたことがわかり、大好きな学校をよい学校にしたいと思ったから。 ○ ステージに向かって歩き始めた健太くんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・今までの卒業生に負けないよ。 ・宮園小学校をもっとよくしていくよ。学校が大好きだよ。 ・もっとがんばるよ。 ・最上級生として、宮園小学校を引っぱっていくんだ。 ・伝統を受けついでいるんだ。	○ いつの間にか校風を受けついでいたことを考えさせる。	
展開後段	3 生活を振り返る。	○ よりよい学校にするために、がんばって続けていきたいことがありますか。 ・体育委員会は、休憩時間が自由に遊べなくて嫌だと思う時もあるよ。みんなが喜んでくれるから、一輪車の貸し出しも笑顔できちんとしたい。声かけもがんばるよ。 ・ベルマーク集めやプルタブ集めもがんばるよ。学校に役に立つことを率先してするよ。	○ 学級や学校の課題を思い起こし、これからの自分たちが進んでよりよい学校にしていきたいという心情面を出させる。 ○ ペアトークをして全員が自分の意見を持つようにする。	○ 理由を聞いた後、具体的に発表し合ったりすることで心情面を出しながら、意欲づけをはかる。
終末	4 先輩の学校への思いを聞く。	○ 先輩の学校への思いを聞いてみましょう。	○ 学校を大切にしていきたいという気持ちを高める。	○ 今までの体験と重ねて、しっかり受け止めさせる。

